

Take Free

医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院 広報誌

のぞきだより

2024

1月

No.209



徳洲会基本理念

健康と生活を守る病院

生命を安心して預けられる病院

- 遠隔医療とAI
- 新年のご挨拶
- 糖尿病教室再開のお知らせ



医療法人徳洲会
野崎徳洲会病院

URL: <https://nozaki.tokushukai.or.jp/>

TEL 072-874-1641



遠隔医療と AI



総長 中川秀光

現在、日本は少子高齢化の問題に直面しており、都市部から離れた所では高齢者が多く、若者が少ないために空き家が急増し、バス交通もなくなり、病院、クリニックの存在も減少し、病気になっても簡単に医師の診断・治療を受け難くなってきて医療難民状態になっている。こんな状況になることは10年いやそれ以前からわかっていたことであり、子育て環境の整備にて夫婦共稼ぎできるような政策を強力に推進してこなかったことも一因であり、与党、野党を含めて政治家のお粗末さに呆れるばかりである。こうなってくると政府も医療難民のための遠隔医療に力を入れざるを得なくなってきている。オンライン診療はそのような状況を改善する一つの方法であるが、先だって、東京衆議院第一議員会館でその講演会があり、厚生労働関与議員や病院長、大学の学長等が集まり、それについて質疑応答があり、今現在クリニックレベルで行われている状況も報告があり、意見が交わされた。「オンライン診療とその他の遠隔医療」を推進すべきその基本方針を作成しているとのことでした。令和3年10月から特定健診情報・薬剤情報（レセプトに基づく過去の薬剤情報）、令和4年9月11日からは、診療情報を閲覧することが可能となっている。また、令和5年1月から電子処方箋の運用が開始されたことにより、リアルタイムの処方・調剤情報の閲覧が可能になっている。これらの仕組みを活用することで、患者情報の把握を補うことが容易になる。さらに、オンライン診療、電子処方箋、オンライン服薬指導及び薬剤の配送を苦に合わせることで、自宅に居ながらにして受診から薬剤の受け取りまで完結することが可能になり、更なる患者さんの利便性向上や感染症対策の効果が期待される。併せて、自宅で患者の確認が可能になる仕組みの構築や、看護師等によるオンライン療養指導がもくろまれており、さらに AI や患者のバイタルデータを把握できる情報通信機器（電子聴診器等）や将来的には侵襲性のある行為を行える技術が登場する可能性も考えているとのことであった。ここ5年の間に無医地区、僻地医療の主となり、徐々に都会にも進展してゆくことが推測される。ここでのAIとは、「Artificial Intelligence（アーティフィシャル・インテリジェンス）」を略した言葉で、日本語では「人工知能」を意味する。AI は一般的に、人間の言葉の理解や認識、推論などの知的行動をコンピュータに行わせる技術を指します。すなわちコンピュータがデータを分析し、推論（知識を基に、新しい結論を得ること）や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習（情報から将来使えそうな知識を見つけること）などを行う、人間の知的能力を模倣する技術を意味します。このような近代の発展に医療も当然乗っかるのであるが、病院の将来像もこのような変化を見据えた経営戦略が必要になっているのは言うまでもない。

新年のご挨拶

2024

迎春



明けましておめでとうございます。新年を迎えて、いろいろ思うことがあります。

このコラムを書くにあたり、内容は全て個人の考えであり、当然反論もあることは重々承知していることを、あらかじめお話ししておきたいと思えます。時代は移り変わり、“私自身、今の世について行けてないな”と感じる方もあると思えますが、どうかご容赦ください。

今の世の中の状態は全て正しいと言うわけではなく、むしろ悪い方向に向いている面もあります。年を重ねるにつれてその変化に対していろいろ不安なことが浮かんできます。日本の将来のこと、特に医療人ですから医療のこと、政治、経済、教育など、挙げたら限りはありません。気になることの一つは、まず、政治家の質に問題があります。政治家がよく発する言葉として“言葉を取り消す”、“議事録から削除する”です。しかし、よく考えてください。一旦話したことを取り消すといったらそれでなかったことになるなんて全く無責任で、なんらお咎めもなくなるなんておかしいでしょう。このことは、教育にも結びつき、古今東西、いったん言ったことに責任を持って教えられてきた我々には全く“寝耳に水”のことで、教育の根本を覆すことではないかと考えています。

最近の安倍派、二階派のパーティ収入のリターンの問題。それそのものは悪いことに違いないが、それに対する政治家の発言があります。自分だけよかったらと派閥に文句を言う人がいます。こんな醜い言動は質の低さの露呈ですよ。また、派閥を離脱する人、これもどうかと思いますね。また、政策の問題として低所得層への金銭の提供、増税など何を考えているのか、よくわかりませんが、日本国の首相のすることですから仕方ないのでしょうか？

次に学校教育の問題ですが、教師は思った教育ができない。学校でも教師が注意したことを、親が口を出してくる。これは学校が教育の場であり、その場で起こったことに親が口を出すのはおかしい。すなわち親の考えを教育の場に持ち込

むことになる。教育への干渉に他ならない。道徳心に欠けた親を少なくするには、もっと小さい時から道徳教育を徹底し、子どもから親になった時に社会的道徳を持った人間に育てることが重要だと思います。その親から子供の道徳が成熟されて行くと考えます。マレーシアのマハティール首相の日本人へのメッセージで“日本から活力が失われて久しい。今や日本は「失われた20年」と呼ばれるに至っている。この原因は教育にある。日本人の多くは、挑戦するための動機や気概を持たない。勇気を出して、世のため人のため明日の日本のために貢献しようという強い気持ちを持たない。そういう心の教育がなされてこなかったことが、日本の衰退を招いた”と指摘されています。日本の再生を期待したい。

そのためには、まず、大学一辺倒の考えを改め、ビジネス学校への進学を進める体制を構築すること。ビジネス学校にはホテル業務専門、旅行業務専門、経理専門、司法書士専門、工学技師（コンピュータ関連）、建築関連、医療関連、医学校などがあるが、それらの各学校を出た方は国家試験を受け、各種免許証を獲得し、大学出身者より、専門知識に溢れ、優位な職場位置を確保されているようにすること。大学はあくまでも研究センターにする。現実にはこのようなシステムが構築されている国があります。そして、国に教育の在り方として受験勉強一辺倒から個々の能力が発揮しやすい新しい体制に移行して欲しいと思います。次に国家・地方を通じて政治家は首相、大臣、各政党の領袖以外はボランティアにし、全議員数を半分に減らすこと。

しかし、活動のための旅費、宿泊費、食費は申請の元に規定の中で支給する。パーティは厳禁、収入は明確にし、賄賂を取り締まるGメン部を設立する。勿論、派閥の形成、世襲はご法度とする。このようにして、将来に希望を持てる若者を育て、自分の仕事に誇りを持ち、愛国心が芽生える国へと生まれ変わることを夢見ています。



お知らせ

糖尿病教室 初級コース 2024年春 再開予定!

開催日時や申込方法など
詳細情報は順次公開!!



今年もよろしくお願いたします

